

父を語る・母を語る

様々な人が語り、綴った父母の本を集めました。

父への恋文 一新田次郎の娘に生まれて

藤原咲子／著 山と溪谷社 2001

1009911029597

作家新田次郎の没後 20 年、長女が初めて綴った父への想い。

父 ーその死

幸田文／著 新潮社 2004

1009914037690

昭和 22 年夏、幸田露伴逝く。その臨終、そして葬儀の記録。

明るい方へ ー父・太宰治と母・太田静子

太田治子／著 朝日新聞出版 2009

1000910047718

太宰治と「斜陽」のモデルとなった太田静子の娘として生まれた著者が綴る父の実像。

父の縁側、私の書斎

檀ふみ／著 新潮社 2004

1009913071297

父檀一雄の思い出は、いつも父と暮らした昔の家とともに蘇る。

死んだら何を書いてもいいわ

ー母・萩原葉子との百八十六日

萩原朔美／著 新潮社 2008 1000810111670

萩原朔太郎の長女である母の最期を、息子が静に綴る。

母 住井すゑ

増田れい子／著 海竜社 1998

1009710064125

ものごころがついてから少女時代の母との暮らしを書き記す。

無名

沢木耕太郎／著 幻冬舎 2003 1009913040873

老いた病床の父を見守り、その人生をたどる。

ひどい感じ 父・井上光晴

井上荒野／著 講談社 2002 1009912033924

娘が書きとめた父にまつわるひとつの物語。

明るい方へ 父・太宰治と母・太田静子 太田治子／著 朝日新聞出版 2009. 9

いまだから書ける父母への手紙 (新潮文庫) 檀ふみ／ほか著 新潮社 2005. 01

蓼麻の家 三部作 萩原葉子／著 新潮社 1998. 10

うつし世の乱歩 父・江戸川乱歩の憶い出 平井隆太郎／著 河出書房新社 2006. 06

おでいと 晩年の父・犀星 室生朝子／著 ポプラ社 2009. 7

加藤シヅエ凜として生きる 104歳の人生が遺したもの 加藤シヅエ／著 大和書房 2002. 12

雁と雁の子 父・水上勉との日々 窪島誠一郎／著 平凡社 2005. 08

小綬鶏の家 親でもなく子でもなく 萩原葉子／著 集英社 2001. 12

朔太郎とおだまきの花 萩原葉子／著 新潮社 2005. 08

次郎と正子 娘が語る素顔の白洲家 牧山桂子／著 新潮社 2007. 04

死んだら何を書いてもいいわ 母・萩原葉子との百八十六日 萩原朔美／著 新潮社 2008. 10

父・井上靖の一期一会 黒田佳子／著 潮出版社 2000. 02

父への恋文 新田次郎の娘に生まれて 藤原咲子／著 山と溪谷社 2001. 08

父開高健から学んだこと 開高道子／著 文芸春秋 1994

父 その死 幸田文／著 新潮社 2004. 08

父でもなく、城山三郎でもなく 井上紀子／著 毎日新聞社 2008. 6

父と娘の肖像 (小学館文庫) 江川紹子／著 小学館 2006. 03

父吉田茂 麻生和子／著 光文社 1993

父のこと母のこと 日本エッセイスト・クラブ／編 岩波書店 2004. 03

父の肖像 辻井喬／著 新潮社 2004. 09

父の肖像 芸術・文学に生きた「父」たちの素顔 野々上慶一／編 かまくら春秋社 199 9. 10

父の肖像 2 芸術・文学に生きた「父」たちの素顔 野々上慶一／編 かまくら春秋社 2004. 07

父の背番号は16だった 川上貴光／著 朝日新聞社 1991

父・宮脇俊三への旅 宮脇灯子／著 グラフ社 2006. 12

父山本五十六 家族で困んだ最後の夕餉 山本義正／著 恒文社 2001. 03

父吉川英治 吉川英明／著 学習研究社 2003. 06

父・椋鳩十物語 久保田喬彦／著 理論社 1997. 06

夏彦の影法師 手帳 50 冊の置土産 山本伊吾／著 新潮社 2003. 09

母 老いに負けなかった人生 高野悦子／著 文芸春秋 2000. 09

母・式田和子が教えてくれたこと 人生を乗り切る術は母から学びました 式田恭子／著 主婦の友社
2002. 12

母・住井すゑの横顔 犬田章／著 大和書房 1999. 05

母住井すゑ 増田れい子／著 海竜社 1998. 01

母の言いぶん 高森和子／著 鎌倉書房 1986

母の万年筆 太田治子／著 朝日新聞社 1984

パパは楽しい躁うつ病 北杜夫／著 朝日新聞出版 2009. 1

ひどい感じ父・井上光晴 井上荒野／著 講談社 2002. 08

藤沢周平父の周辺 遠藤展子／著 文芸春秋 2006. 09

無名 沢木耕太郎／著 幻冬舎 2003. 09
